

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方・考え方を身につける。 ・地理的情報の収集の仕方と処理方法を身につける。特に防災に力を入れる。 ・地球的諸課題について話し合い、理解を深めるとともに、他国との協力の重要性に気づかせる。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	12	地図と GIS の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなコンテンツを利用して、地図上に情報を表すことの意義と方法を学ぶ。 					
	8	自然災害と防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの意義と探し方、使い方を学ぶ。 ・学校周辺や自宅周辺のハザードマップを見て、どんな危険があるのか、どう対処すべきかを話し合う。 					
	6	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・大地形の成り立ち。 ・日本の地形の特殊性とそれへの対応について。 					
2学期	15	生活文化の多様性と気候環境	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化を通して、気候風土、宗教の影響を知る。 ・世界の気候を概観し、人々がその制約をいかにして克服しようとしたかをみる。 ・日本の気候の特徴を概観し、生活の工夫を考える。 					
	5	生活文化と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・立地論と、その変化を学ぶ。 					
	6	地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率の低さから入り、それを解決するためにはどうしたら良いかを考える。 ・貿易についても触れる。 					
3学期	8	地球的諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題をはじめ、資源・エネルギー問題、人口問題、難民問題などを概観し、どう解決していくべきかを話し合いもさせながら考えていく。 					
	3	国際協力の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・上記問題解決のためには、国際的な協力が必要であることを気づかせ、そのための国際機関を概観する。 					
	7	持続可能な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の課題を解決する手法としての地域調査の実施方法を学び、地域の課題も考えさせる。 ・持続可能な社会の実現への行動を考えさせる。 					
教科書/ 副教材	教科書「わたしたちの地理総合」(二宮書店)、基本地図帳(二宮書店) 副教材「新編フォトグラフィア地理図説」(東京法令)							
関連科目	「地理探究」							
評価の 観 点	知識・技術	世界各のおおまかな絶対的位置と、相互関係の把握。自分が知りたい情報をどうすれば入手でき、どうすればわかりやすく表現できるかを考えることができたか。						
	思考・判断・表現	地球的諸課題を正しく認識し、どうすれば解決できるのか、自分ではまず何をすべきか、他人にはどう伝えるのがいいのかを考えることができたか。						
	主体的に学習に取り組む態度	各自が必要に応じて地理情報を入手し、周囲の人たちと協働しながら、自分が考えた課題を解決していく態度を養うことができたか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○			
	実験・実習(行動観察、技能)		○		○			
	テスト等		○	○				
	レポート・ノート・課題等		○	○	○			
	自己評価			○	○			
	評価割合(%)		70	15	15			
留意事項	生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。							

教科名	公民	科目名	公共	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・考察・選択・判断の基礎となる概念を理解し、資料の情報を適切に調べまとめる技能を養う。 ・社会的課題解決のため、事実に基づいて考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れた構想を議論する力を養う。 ・社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、各国の主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さの自覚を養う。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	4	社会を作る私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期とは何か、自己形成の課題や職業生活、社会参加について学ぶ。 					
	4	人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシアの人間観や科学的思考法、自由のとらえ方や望ましい社会を作るための思想を学ぶ。 					
	3	他者とともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福とは何か、公正な社会とは何かを考える。 					
	3	民主社会の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等を実現するには、また、差別と偏見をなくすには、どのような態度が必要かを考える。 					
	4	民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立過程と基本原理、その仕組み、世界の主な政治制度を学ぶ。 					
	8	日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程と基本的性格、人権保障のあり方と平和主義について学ぶ。 					
2学期	10	日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治機構と国会、政府、司法制度、地方自治、政党政治、選挙制度などについて学ぶ。 					
	8	現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動や資本主義経済に関する基本的知識を学び、現実社会の諸課題について考える。 					
	8	日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済の推移などを理解し、現実社会の諸課題について考える。 					
3学期	6	国際政治の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の国際政治の動向について学び、現代の諸課題について考える。 					
	6	国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の国際経済の枠組みとその変化について学び、現代の諸課題について考える。 					
	6	持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい国家・社会の構築や平和で安定した国際社会の形成に主体的に参画するあり方について考える。 					
教科書/ 副教材	教科書「公共」(実教出版) 副教材「テーマ別資料 公共 2025」(どうほう)							
関連科目	「地理探求」							
評価の 観 点	知識・技術	考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から必要な情報を調べまとめることができているか。						
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実に基づいて多面的多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを表現することができているか。						
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会を実現することを構想し、現実の諸課題に対して主体的に解決しようとしているか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○			
	実験・実習(行動観察、技能)		○		○			
	テスト等		○	○				
	レポート・ノート・課題等		○	○	○			
	自己評価			○	○			
	評価割合(%)		60	20	20			
留意事項	生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。							

教科名	地理・歴史	科目名	歴史総合	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目標 (生徒につけたい力等)	・近現代の歴史の変化に關わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える。 ・現代的な諸課題の形成に關わる近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	2	歴史の扉	・学習に必要な基本的な技能や学び方を身につける。					
	8	近代化への胎動	・18世紀のアジア諸国や欧米との貿易などを基にアジアの経済・社会やヨーロッパの市民社会を理解する。					
	8	欧米の市民革命と国民国家の形成	・産業革命と交通・通信の革新、工業化と世界市場の形成、欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解する。					
	8	アジアの変容と日本の近代化	・日本の開国、明治維新や憲法制定などを基に欧米の市民革命や国民統合の動向と関連して立憲体制と国民国家の形成を理解する。					
2学期	9	帝国主義の時代	・列強の進出と植民地形成、日清・日露戦争などを基に帝国主義政策とアジアの変容を理解する。					
	8	国際秩序の変化や大衆化と私たち	・第一次大戦後の日本・アジアの経済成長、ソ連と米国の台頭、国際連盟成立など国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。					
	9	経済危機と第2次世界大戦	・世界恐慌とファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に国際協調体制の動搖を理解し考察する。 ・第二次大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦開始、日本の改革と独立回復などを基に戦後の国際秩序を理解する。					
3学期	7	冷戦と脱植民地化	・アジア・アフリカ諸国の成立、先進国の動向、核軍拡、日本の高度経済成長など国際政治の変容を理解する。					
	7	多極化する世界	・石油危機、アジアの経済発展、市場開放と経済自由化、情報通信技術の発展など市場経済の変容を理解する。					
	4	グローバル化と現代世界	・冷戦終結、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散などを基に国際政治の変容と課題を理解する。					
教科書/ 副教材	教科書「詳述歴史総合」(実教出版) 副教材「新詳歴史総合」(浜島書店)							
関連科目	「日本史探究」							
評価の 観 点	知識・技術	近現代史の諸事象を世界とその中の日本を広い視野から捉え、現代の諸課題が形成されていることを理解しているか。諸資料から歴史に関する情報を適切・効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。						
	思考・判断・表現	近現代史の諸事象の意味や意義・特色を、時期や推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目し、多面的・多角的に考察、課題を把握し解決を視野に入れて構想することができるか。						
	主体的に学習に取り組む態度	近現代史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に見通しを持って学習に取り組もうとしているか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○			
	実験・実習(行動観察、技能)		○		○			
	テスト等		○	○				
	レポート・ノート・課題等		○	○	○			
	自己評価			○	○			
評価割合(%)		70	15	15				
留意事項	生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。							

教科名	公民	科目名	政治・経済	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済、国際関係について理解し、現実の情勢を主体的に探究する態度を身につける。 ・日本国憲法、日本の政治機構などについて理解し、現代の政治の諸課題について考察を深める。 ・現代経済のしくみを理解し、国民経済の動向や政府の役割と日本経済の課題を考察する。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)
1学期	6	民主政治の基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・「法の支配」や人権の意義について理解する。 ・世界のおもな政治体制について理解する。
	6	日本国憲法の基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の成立過程と三大基本原理を理解する。 ・基本的人権を判例に則して特徴と課題を学ぶ。
	8	日本の政治機構	<ul style="list-style-type: none"> ・国会の意義と三権分立との関係を理解する。 ・内閣の機能や内閣総理大臣の権限を学ぶ。
	6	現代政治の特質と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後政治と政党について学び、その意義を考察する。 ・世論の役割とマスメディアの現状を考察する。
2学期	6	現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の成立、主権国家と国際社会の関係を学ぶ。 ・勢力均衡や集団安全保障、国際連合について学ぶ。 ・冷戦の変遷、冷戦終結後の紛争多発について考察する。
	10	現代の資本主義経済	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動や市場経済の機能、その限界について学ぶ。 ・国民所得と経済成長、物価や景気変動の影響を学ぶ。 ・財政のしくみと機能を学び、その課題を考察する。
	10	日本経済の発展と産業構造の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の諸改革や高度経済成長の経緯を理解する。 ・オイル・ショック後の産業構造の変化、バブル経済とその崩壊、それ以降の経済状況を理解する。
3学期	6	福祉社会と日本経済の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全、消費者、食料、雇用と労働、社会保障と福祉などの諸課題について考察する。
	12	国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・国際収支や外国為替について学ぶ。 ・戦後の国際経済体制について理解する。 ・発展途上国の発展、南北格差の是正を考察する。 ・EUやASEANなど地域的経済統合を理解する。

教科書/ 副教材	教科書「政治・経済」(東京書籍) 副教材「要点マスター 政治・経済 整理と演習」(東京書籍)			
関連科目	「公共」			
評価の 観 点	知識・技術	現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。		
	思考・判断・表現	現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な問題を考察し、それらの本質や特質、望ましい解決について多面的、多角的に考察しているか。また、考察の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。		
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会を実現することを構想し、現実の諸課題に対して主体的に解決しようとしているか。		
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法	知識・技能 (技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	座学(学習観察、発言、話し合い等)	○	○	○
	実験・実習(行動観察、技能)	○		○
	テスト等	○	○	
	レポート・ノート・課題等	○	○	○
	自己評価		○	○
留意事項	生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。			

教科名	地理歴史	科目名	地理探究	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な見方・考え方を働かせて、課題を追求したり、解決方法を探る姿勢を身につける。 ・広い視野に立ち、国際社会を主体的に、平和的に生きる態度を養う。 ・地球的諸課題について話し合い、理解を深めるとともに、他国との協力の重要性に気づかせる。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	6	自然環境(地形)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が変動帯に位置することを再確認させる。 ・災害と防災・減災も絡めて考察する。 ・特に「平野の地形」と改変について考察を深める。 					
	10	自然環境(気候)	<ul style="list-style-type: none"> ・気候を「水・海洋・大気」の3循環で学び直す。 ・気候区分の方法を理解するとともに、世界的な気候変動を考察する。 					
	10	資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・「立地・農業地域」と「都市・市場」の視点で学ぶ。 ・「立地・工業地域」と「国際分業」の視点で学ぶ。 					
2学期	8	サービス経済化と社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次産業の傾向性と変化、特に物流に関する現状と課題について深く考察し、解決の道を探る。 					
	10	人の移動と世界的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口増減と、交通の発達、観光について。 ・様々な要因での難民問題についても考察する。 					
	8	村落と都市	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立地要因。 ・先進国と開発途上国それぞれの都市問題。 					
3学期	5	文化と国家	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化と大衆文化で生活文化を総まとめ。 ・農業高校なので、特に「食」に力点を置く。 					
	8	各大陸・地域と相互の関連性	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の現状や国際機関、地域連合などを学び、各大陸・地域の課題を探るとともに、国際協力の重要性を認識させ、それに自分がどう関われるかを考えさせる。 					
	5	環〇〇海からの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・海からの視点を入れて、地域協力の重要性について考えさせる。 					
教科書/ 副教材	教科書「地理探究」(二宮書店)、基本地図帳(二宮書店)							
関連科目	「地理総合」							
評価の 観 点	知識・技術	新しい視点や世界の動向を理解し、地理総合で学習した知識をさらに使えるとして身につけられたか。多くの情報をグラフ化・図示化して表現できたか。						
	思考・判断・表現	地球的諸課題を正しく認識し、どうすれば解決できるのか、自分ではまず何をすべきか、他人にはどう伝えるのがいいのかを考えることができたか。						
	主体的に学習に取り組む態度	各自が必要に応じて地理情報を入手・加工し、周囲の人たちと協働しながら、自分が考えた課題を解決していく態度を養うことができたか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○			
	実験・実習(行動観察、技能)		○		○			
	テスト等		○	○				
	レポート・ノート・課題等		○	○	○			
	自己評価			○	○			
	評価割合(%)		70	15	15			
留意事項	担当者も変わるので、生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。							

教科名	地理・歴史	科目名	日本史探究	対象学年	3 学年	履修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時数	70
目標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史における事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察し、歴史的な課題を把握して解決を構想する力や、構想したことを効果的に説明する力を養う。 ・日本史に関わる諸事象をよりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養う。 						

学 期	時数(時間)	学習項目(何を学ぶのか)	学習内 容(どのように学ぶのか)		
1学期	2	日本文化の黎明	・旧石器時代から縄文時代、弥生時代を概観し、日本列島の歴史的環境と文化の形成、特色を理解する。		
	6	ヤマト政権と 律令国家の形成	・古墳時代から飛鳥時代、奈良時代を概観し、律令国家の成立過程を理解する。		
	2	律令国家の変容	・平安時代を概観し、貴族政治の展開、地方支配の変化や武士の出現など、律令体制の変容を理解する。		
	2	中世への転換	・院政期から鎌倉初期を概観し、貴族政治の変容と武士の台頭、土地支配の変容などを理解する。		
	3	鎌倉幕府の展開	・武家政権の伸張とその特色を理解する。		
	5	室町幕府の展開	・武家政権の変容や多様な文化の形成などを理解する。		
	3	近世への転換	・戦国時代から安土桃山時代を概観し、中世から近世への時代の転換を理解する。		
	3	幕藩体制の確立	・江戸初期を概観し、幕藩体制とその特色を理解する。		
2学期	4	幕藩体制の展開	・文治政治への転換で安定期を迎えた江戸期前半を概観し、近世の社会・文化の特色を理解する。		
	3	社会の変化と幕府の対応	・江戸中・後期を概観し、幕藩体制の変容、庶民文化の形成、近代化の基盤の形成を理解する。		
	3	近代への転換	・江戸末期を概観し、幕藩体制崩壊の過程を理解する。		
	6	近代国家の形成	・明治期の諸改革や立憲体制への移行などを理解する。		
	6	国際関係の推移と 近代産業の発展	・明治時代後半を概観し、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容について理解する。		
	5	第一次世界大戦と日本	・大正時代を概観し、大正デモクラシーなど第一次世界大戦が与えた国内外への影響を理解する。		
3学期	7	軍部の台頭と戦争の長期化	・昭和期前半を概観し、第二次世界大戦に至る過程や大戦中の政治・社会・国民生活の変容を理解する。		
	4	日本の再建	・占領から独立回復までを概観し日本再建を理解する。		
	2	経済の発展	・高度経済成長期の動向について理解する。		
	4	経済大国とグローバル化	・1970年代以降の動向について理解する。		
教科書/ 副教材	教科書「日本史探究」(第一学習社) 副教材「プロムナード日本史」(浜島書店)				
関連科目	「世界史探究」				
評価の 観 点	知識・技術	日本史を地理的条件や世界史と関連付けて理解し、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。			
	思考・判断・表現	日本史の諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色を多面的・多角的に考察でき、また、歴史的課題を把握して解決を構想する力や、構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。			
	主体的に学習に 取り組む態度	日本史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けている。			
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○
	実験・実習(行動観察、技能)		○		○
	テスト等		○	○	
	レポート・ノート・課題等		○	○	○
	自己評価			○	○
	評価割合(%)		60	20	20
留意事項	生徒の様子を見ながら、当初の計画に適宜アレンジを加えていく。				